

本草圖譜

卷之八十五

和書門			
類	號	函	架
三	六	六	三
冊	五	冊	四

內	開	文	庫
和	三	三	五
書	六	六	六
類	號	冊	架

和植物
S
40

內閣文庫	
番號	和 366
冊數	45 (40)
函號	196 189



甲



本草圖譜卷之八拾五目錄

南政官

内府

喬木類

カにれ

一種

二

一種

一種

不詳

榔榆

あしきき

四

蒸萸

不詳

蕨芳木

物印に載る図

一種

同上

五

一種

同上

六

一種

同上

七

烏木

こくたん

同

琉球の図

本草圖譜

卷之八拾五

樺木 ほ のは 十 同 皮の図 十一

綏木 すい ねしき 十三 一種 牛の毛 十四

欄木 らん くわりん 一種 へにくわん

梭欄 そらん ーちろ 十五 一種 せしちゆる 十七

蒲葵 ほき ひろい 十六 檐木 不詳

本草圖譜卷之八十五

喬木類

東都 岩崎 常正 著
男 岩崎 信正 校
門人 小山 廣孝

榆 う

やにれ 和名鈔 本草和名 はるにれ にれ ねり 越前にれ の轉なり
ねれ 木曾 同上 あがたも 前松 やきり 尾州 つきさ に夷
いかつふ あふし やに 同上 鑽天榆 通 零 郡方
鞞鞋樹 同上 榆錢樹 救荒 本草



木曾山中及び日光山中禪寺邊に
多し春の初葉は先して花を
生じ形状ふさくらのに似て長さ三
分計り一葉に数花を結ぶ開く時
は薄紫色花後實を結ぶ形もさ
の實は似て羽かく薄く中には圓き實
をなす熟すれば茶褐色となる春
の中葉を生じ形櫻の葉に似て
短く圓し樹皮を採りて薬用に入
る此を榆白皮とす



一種

葉の形前條
より似て大なる
物



一種

葉の形前條より
長大なるもの



一種

葉の形状前條より
似て本狭く白毛
あるもの

榔榆

あきよれ ねれのき いぬけやき 阿列同

かろけやき

獲郎榆

挟榆 上共同

野榆 汝南 圃史

大樹とある葉の形もるにれより小く互のきの葉子似て邊
子鋸齒あり秋月葉の間に小花を開く形状もる子れめ如
く房をかきとも亦同じ後實を結ぶ亦もるかれの如し材白
色よして硬くしせしと同一車の轂又船の楫も作る



本草綱目 卷之八十五

蘇方木

多邦

明一

紅木

巴勝居

蘇枋

和名

サンダリウム
サンテルホート
蘭



物印忙子載る圖葉の形蔓荊の
葉子似て圓く長きりりて深綠色か
り樹皮褐色中心紅色枝の梢子五
瓣の紅花を閑く大き二三分ほど
南方草木状子樹類槐黄花黒子
と云子類も唯花色異なりのみ
也

一種



同書子載る國葉の形女貞の葉ちよていの葉は似にて大はく葉の間とに
実を結不圓くして大き指頭の如く生多時ハ緑色熟ま
ハ黒色トある蘇蘇茶ノ説子自南海崑崙未而交列
爰列亦有之樹似菴羅葉如榆葉而無澀抽條長
丈許花黃子青熟黒ト云レ々々



同書に載る同葉の形カツリハ
子似て木の心紅あり



一種



同書に載る圖葉の形
 桃葉珊瑚の葉に似て
 長さ四五寸木の心紅色
 あり

蘇方木和産か—材ハ舶来の物あり長さ二三間圍り二三尺外皮ハ白色中心ハ紅色也木理直小—木ノ氣を吹入る時ハ末子通古渡の物ハ色深紅也新渡の物ハ色黄赤也これ若木の物と見ゆ此樹をけつり薬用漆用とを—又揚弓を造り又箸を造る小笠原島の記ハ兄島ノ蘇方より大木ハ色濃く小木ハ色浅くと

鳥木 うはく

角鳥 かくう

檠木 えい

急木 きゅう

鷹木 たか

和産か—こくたんと之ともいやくたんと白檀紫檀の類子巧み材ハ舶来り木の色甚黒く漆の如く黒柳子似て木理を—甚堅硬—諸の器物に作る一種を—こくたんとより—これハ皮ノ近き夏の物あり—

同



本草綱目 卷之八十五

琉球の図より葉の形冬青なり大に枇杷葉珊瑚に似て狭く
先回し中より山傳信録より鳥木葉如桂直上外無常木不異中心
木質黒色然亦有白理者と云説並に図より因て考ふも時珍
の説より葉似櫻櫚と云ふ合さざるとも其木の形状を明し云さ
れ、時珍の説疑しと云ふなり

樺木

かは かはのみき 別信 ぐさざくら しらかし 奥
うぐいまつ 別信 かんバ 韓皮木 小物理 小識
樺桃 暈花 詳注 鵲樺皮 明一 統志

西南の國より無く東北の國よりあり其内野別信列甲州等より尤
多し葉ハ桑の葉に似て大に堅く周りに細き鋸齒あり春夏
の間葉の木に穂をかき長さ二寸許り小き白色花を開き後
實を結小形しての莢に似たり秋の末に熟し落して生し易し

葉ハ霜後より落つ樹皮白くして黒き斑あり肌ハさくらの皮
に似て他木と異なりて甚だ剥きし信列より薄く剥て器
物又ハ短冊より作り出さ同州より此樹皮能く燃るゆへに雨
中の松火より作り用ゆ又鸕鷀を使て魚を取る時の用と云ふ
ゆへにうたいまつと云ふ尤此皮餘木と異にして脂多きゆ
へ水中に入き大雨に逢るといへとも大減する者也蘭山甲州
徳本の無盡蔵を引て同書より樺皮を多く用ゆ故に今世より用
ゆる者多し此を焼けば臭氣あり故にくさばくらと呼ぶ又
同書より樺を隠して華より作るといへり先に出さぬの葉部菌
類より樺皮を以て菌に當者の毒を解きと云ふ此物也集
解より此皮を暖皮と云ふ説ハ誤りと云ふか易別府志及
ひ西京通志より藥木の重皮と暖皮といへるより因て此相違
たす找しるべき也

本草綱目卷之八十五

梓くこけり木



本草綱目卷之八十五
十一

本草綱目卷之八十五

樺木皮



本草綱目卷之八十五

十一

絨木

ねぢき ねぢのき 後母 あがねぢ若

かしをまみのき 京かしをー^三文 かいをー

かまをー^大薩 さるのさいざし ぬりばし

ぬしつふのき さるをえし^水

山中多し樹皮百日紅（さるをえし）似多し木理白く薄黄色なり大樹
とまきハ木必も戻り小木の内ハ直上も春月葉を生そ初生
紅色より長しハ緑色とある形百日紅の葉子似て尖り
り新枝赤色にして光りりり味漆の筋（し）如し故に思り
むしとつり夏月枝の指穂を剪て花と生そ形なりだ
んつ（し）の花（し）似て小く壺の如く薄紅色なり花後実を結
ふ大さ小豆（し）の如し此樹炭となして漆塗るときふしに用ひ
此炭をかしをまみとつ



一種

きのき 京 うくひきのき

信別草津及び豆州下田野及び日光等より葉の味は甚だ酸
し形田くして大き二三分計り周りに細き鋸歯あり嫩苗ハ
紅色を帯ふ春月葉の間に紅色の小花を開く形なりだんつ
この如し



欄木

くまらん

花裡廣東新語

花欄典藉便覽

和産かし材ハ舶来なり木理紫檀似て紅紫色堅くして氣孔有り削るに甚だ逆理をあらはし削り難きもの也此材を以て三弦の胴造り又器も造る俗に和まくり人と呼ぶとのハ果の部標植あり

一種

へまくり人

和産かし前種と同じく舶来の物なり木理くまらん似て少柔かく肌紅紫色の中は朱をさけ如し此物も三弦の胴造りて上品也又器も作る

櫻欄

苔児木

名物方言

比欄通推

并閣上

樹直聳して枝かく梢子月々新葉を生し四季凋ま一葉の形手を開く如し夏の初梢の葉の間は房を生す外皮ありて形蜀黍の實の如し長をれハ外皮落て顕る形魚子の如し初黄色花開く時ハ淡黄色とかる花辦甚微して見易から後実を結ぶ形人人に似て短し熟をれハ黒褐色とかる下種して生し易し此樹材とかり水入て久しく朽せし木理頗るたうやさん子似る外皮の毛をとりて繩とかり又可きに造る此樹を多く養ふ時ハ民用子利なり



本草綱目
卷之八十五

十六



本草綱目
卷之八十五

一
カ
ろ

同

木の形



一種

とろろ

樹の形のろと同一く葉も形同しといへとも短く厚く硬くして年々重かさねといへとも下垂せしめて直立も花実も前條と同じ外皮の毛をとり用ひると此亦前條と同し



蓮





蒲葵

解集

びりやう

びろり



葉の形椀わんに似て葉の本より分岐を長さ五六尺莖七四五尺に至る莖三稜さんりやうにして本に刺有り花実ハわりとハハとも未も真物を得されハ図とハ説ハ実を割ハ粉の如き物有りといハリ此葉を以て扇子造る此をひりやうせんといハ又莖を造りこれとひりやうかさといハ扇子造る物舶来の品英ハ薩呂さつろより作り出ス

本草圖譜卷之八十六目錄

喬木類

柯樹	志ハ	一種	一種	一種
一種	三	一種	一種	一種
烏白木	ヒハハセ	四	巴豆	六
同	舶来写真	七	同	八
同	全ハ	九	大風子	十
同			海紅豆	十一

本草圖譜

卷之八十六

本草綱目 卷之八十一



本草綱目 卷之八十一



柯^か
樹^{じゆ}



一種

葉の形状
前糸こ似
て長大な
物



一種

葉の形—おみ似て
幅狭く短きもの



一種

ホトトギス

葉の形状^{ウツチ}あり似る至て大
長^{ウツチ}七寸^{ウツチ}濶^{ウツチ}二寸^{ウツチ}許^{ウツチ}あり又
大^{ウツチ}一^{ウツチ}て長^{ウツチ}七寸^{ウツチ}許^{ウツチ}あり





烏くろ白しろ木ぎ トウモロコシ

おんきんせせ

あんげんお

バー



五

諸国ともあり葉の形紫荊（アサギ）に似て小く嫩苗（わかめ）の時も紅色よりて美し長
すれて緑色となる夏月枝の梢（こま）ごとく穂（ほ）をやへ長さ三寸花開く時、黄
白色（しろ）にして栗の花の如く穂の本と実を形小形同く微（ほろ）一扁（へん）みあり形鱗（うろこ）子
に似て三の道あり初緑色熟すとまじ黒褐色（くろ）とやうことを破（やぶ）せば三子あり
外（ほか）に白（しろ）い粉ありて核を包む此実より蠟（ろう）を採り蜂燭（はちま）を造る

巴豆

巴人

中州和名
引難要訣

不辛

蜀巴（しゅう） 全（ぜん） 子（し）

カラナ ナグリア（ア） アメリカアンセ ウランドルホーム（和）

和産ちく実、形来あり形海松（うみま）の子に似て
黄褐色用ゆよ、修治（しゆぢ）子説（せ）如（に）の如く皮と
心を去り仁を用ゆ其心仁中（ちゆう）にある芽
の用あや炒（あ）りる研（ひ）り紙（し）子包み壓（お）して油
を去る一然（しか）らされと毒甚多強（つよ）く一之
以巴豆霜（ふ）し、小市邦（し）と霜と云と黒い
梵（ぼん）の（と）を云故（ゆ）巴豆の黒梵を用ゆ、誤
り也飲膳正（いんぜん）要（よう）子巴豆切服（き）を（ら）ず、芦笋（あし）
野猪（や）猪（し）が食ふとを忌む（い）む（ち）あり



本草綱目 卷之八十六



同

本草綱目 卷之八十六



又政年中蘭人肥前長崎へ東亞米利加州に産する如の巴豆
の字生似持来、其形状莖紅黄色、して互生す葉、胡椒
似て潤く又苧麻の葉に似て尖りあり周りに疎き鋸齒あり
枝の梢に穂状なりて数顆を結ぶ穂ありて似て小
く又縁随子に似る一顆に三箇を包む一子の形状船来の実
に似たる花の形、罔やとつへとも蘭人の説に花に穂状
なりて鬚の如く其色珊瑚の如く枝葉を切ると白汁出ると
いへり是即今頌の説に今嘉州眉州戎州皆有之木高二三丈
葉如桜桃而厚大初生青色後漸黄未至十二月葉漸稠二月後
漸生四月旧葉落尽新葉齊生即花、癸成穂微黄色五六月結実
作房生、青至八月熟而黄類白豆蔻漸々自落乃收之、一房有二
瓣一瓣二子或三子、子仍有穀用之去穀といへる、由て考る
れ、花の形色相合はると、要る蘭人の説なり、由て暫く載す
時珍の説に由て考ふれ、能合りとす、其説に子及仁皆似海
松子と云り此説、由れ、頌の説に花実の形状を違へるとか
すべし

同

船来の種、蔭にへ、濠り生して実を結ぶ、其实江戸にまき生す
る物なり、樹直立して枝葉互生し一葉の形状桜の葉に似て
厚く先尖り嫩苗、紅色、帯びて美しく、梢に穂状なりて五瓣
の小き白花、切開き形をみれば、花の形に似たり、實に結ぶ
といへとも、熟せば此物の形状に似て、前条の写眞の罔を考
ふれば、葉の形状に相似たり、花色の異なるも、同物にして花
の色のみ異なるものなりとすべし

本草綱目卷之九十六

九



同

本草綱目卷之九十六



本草綱目 卷之八十一

同

真曲派氏、所載の品、
葉の形、前条に似て、鋸齒あ
る葉と、四葉の物と、雜り生
す樹、穂、似て、菊花の
如き、ゆき、黄花、似、す、花、

と前条と異、こ、又、同物と
いへ、る、花、の、裏、り、の、こ、



大風子

和彦、舟、末、の、実、あり、形、状、無、患、子
に似て、外皮、皺、紋、中、の、実、又、無、患、子
に似て、赤、黒、色、なる、蘭、山、の、説、り、和、俗、之
以、雷、丸、ト、云、ひ、油、似、雷、丸、の、油、ト、云、又、油
桐、の、油、ト、和、の、雷、丸、の、油、ト、不、皆、誤、り、ト
いへ、り、歟、各、時、珍、の、説、り、能、治、大、風、疾、故、
名、ト、いへ、り、此、説、子、申、て、雷、丸、油、桐、の、実、也、
用、由、へ、り、



本草綱目 卷之八十一

同

船来の書り載る図
形状石榴子似て中
子方子粒子を然
ふ集辭の記す状如
椰子、而田、其中有
核粒十枚大如、
子中有仁白色久則
萎、
方へん子合へり



海紅豆

とらとんまめ りうまごほり とらまめ

和産あり 核の船来あり其木の形状物印也子載る図あり葉
一茎に對生し一葉の形蚕豆の葉子似て小く四く枝の先子
葉生す核子花を生す形豆の花子似て白色なり其ま眉豆
に似たり中子しるこありまめ子似て深朱色子黒紋あり集
解り宋和益部方物圖に引て紅豆葉如冬青而用淡春開花白
色結莢枝間其子累累而綴珠若大紅豆而扁皮紅肉白とら
るに合り

本草綱目 卷之八十六 豆

海紅豆

ストツクエルウエテン 薊の類



本草綱目

卷之八十六

豆

相思子 トウアツキ 妙しきあつき ちんちんあつき

相槲子 花秘傳 赤小豆 花馬豆 紅豆は赤

美人豆 豆 紅闌木 細珠

和名カシノハネ 邦名の豆類あり形赤あつき
に似て半豆と云く半赤あつきの豆類あり
の説古くあり一樹あり今も今もあり
葉挽きより小く合穀葉より大い
かりと云付ゆと云り



同 ストックユルウエテン 藪の類

物印に載る國葉の形槐葉に似てわくわく葉の間子穂ありては
結ぶ節に似て短く四とあり申子者お豆に似て半赤半黒あり集
子其葉の穂其花似白黄其葉似白黄其子大如小豆半赤紅色半截
黒色と云ふは合り



灌木類

桑

くわ

和名新大和草子くわとは桑の食ふ桑と云義ありとへり

顛

根

本草和名引雜要訣

枝

桑丹

丹引七

南庭

樹

名物

糞蟻食

桑

榘樹

榘荒

蔓

蔓字通下

糞

人精

寶

砂

龍

芽

呂起

モリユス

羅ハールベシ

民家栽て蚕を飼ふに用ゆ種類多し一樹に雌雄ありて子を結ぶ故郷に流るるに雄と名毛の形状に因て名はけり、と集解に随て此のふつを中載物もみその物に名あり

山桑

集解

まぐわ

まろばぐわ

樹高さ一丈余に至る春月葉を先て茎の芽ごとく穂を生じ長さ一寸許り形栗の穂に似たり長さはさむ黄色の小花は籜生す随て実を結ぶ形状魚子の如し初青く半熟する時紅色に熟すきり紫黒色となり味は酸し甘し葉は花を開くや随て花の本より生れ延長し本は丸く葉の形梅に似て厚く大に長さ二寸余尖尖し又穂は花の如きなり、と集解に及至り黄色となりて落葉す時珍の説に山桑葉尖而長しといへり



ノ
巳

本草綱目
卷之六十一
十五

本草綱目卷之八十六

白

桑桑解

高高桑高

魯

桑魯

桑魯

高高桑高



桑の形多々已子似て甚濁く
大なり幅七八寸長一尺許り
午方の葉の如し此は花の
開くとりへより白を結ぶと
結しこす椎木なり時珍の説
の白桑

本草綱目

卷之八十六

十六

本草綱目 卷之九十六

雞桑ケイソウ 雞桑ケイソウ 雞桑ケイソウ

あけこい

てんてんてんてん

さくさく

わんわん

花ハナ 又また 桑そう 注注



葉の形構或之野菊の葉子似て花又
あり此品実似結ふと見ゆ是此品
之解珍の記云雞桑葉花樹と
云又子桑葉樹而後善といふ
此子桑の葉の形状葉解之記
と云ふも唯實多し物故に
あべ

本草綱目 卷之九十六 十七



一種

枝軟弱弱く細く木の葉を前葉の如く相まじりてさそふて前葉の如きなり花又甚深一甚一を葉の如くして美一此物根の外皮は白く



本草綱目 卷之八 桑木

女桑木 いとしわ

枝生つて細く長く、葉の形
前桑の木の葉の如く、花又深
し細く、葉を採ふと青く、豆が三
宅字より桑葉生と名け、葉の如く
東てあり
是桑の
葉の如
く、葉
の如く
みあり



本草綱目 卷之八 桑木 十九

本草綱目卷之八十六

一種



ひしきくわ

あかひ 真乳印 豆方え

此の形雞子似て
おくもカ一の如く根
の厚皮其葉を以て
甚一中葉和名は徐
茶福を引て茶雞葉
葉のお者也
是也



一種 乙みくわ

葉の形あさみ
くさきみくわ
多く乙みくわ
似長

本草綱目卷之八十六 二十

桑根白皮

桑根子生之桑白皮と云い、葉をのぼを落す物、真を二物を用ひ
へーさらりと呼ぶ者、楮の根を用ひ、中へ入るらび用ひ、一先と自
ら桑根を楮の根と用ひ、楮の根を楮の根と用ひ、一先と自
を二物と用ひ、形の外は二物、一先と自、白色延ぶること、数とす。

皮中白汁

田村氏の説、新に桑の木の皮を取り、焼て其液、汁は取らば
竹漉紙に、清如くす。

桑柴灰

桑の木の葉を楮の葉と焼て灰とす、物也。

桑木耳子桑葉

桑花

桑寄生

桑柴火

桑蝶蛸

桑土蠹

此六種、各桑に随ふ也。

